

## 平成27年度事業計画書

社会福祉法人はりま福祉会  
せいりょう園

基本理念：『看取りの営み』は新たな命が誕生し成長して歴史が続く『源』です。

人は老いて完結する命を集団の中で看取る唯一の動物であり、看取りが社会創成の原点です。4月から要介護3以上に利用が限定される特養は、当然に命と向き合う看取りの営みが生じます。人は何時までも健康でありたいとの『願望』を抱きながらも、要介護や認知症になって苦悩し葛藤する『現実』の中で命と向き合い、老いが伴う『諦観』を養い、『思想』を確立して『死を受容』します。老いる過程で遺伝子では伝わらない『思想の芽』を次世代の心に植え付ける事が『老いる人の使命』であり、その使命を介護が支えます。願望ではなく現実と向き合う『覚悟』が重要です。介護職はその覚悟を支えて『次世代に託す未来』に備えます。『未来の行方』が介護職に委ねられている事を自覚し、覚悟に応える感性を磨き、思想を蓄え、人間の歴史を引継ぎます。

### (1) 平成27年度事業方針

老いて要介護になった人を受け容れる社会であればこそ、先天的な障害のある人を包摂する社会が実現します。認知症の人が表す懸命に生きる姿は、知的障害やダウン症など多様な人々を包摂して地域社会が活力を持続する為の最も重要な要件を現しています。要介護や認知症のお年寄りが『吾身を愛しむ心』を支え、その最期を『看取り弔う』営みが、新たな命の『誕生と成長を愛おしむ心』を養い、次の世代が社会を引継ぐのです。地域包括ケアシステムの最も重要な役割を、介護事業が担います。

- ① 今年度よりケアハウスにおいて、特定施設入所者生活介護を提供します。バス・トイレ・キッチンを備えた完全個室で、在宅モデルの看取りの営みを実現できる介護施設を目指します。
- ② ユニット型特養1丁目と2丁目の間の廊下を拡張して60㎡程度の工房を設えます。地域の人や子供達が訪れる創造空間として、陶芸や書道・音楽など多様に活用し、要介護や認知症の人の暮らしとの触れ合いを通して、明るい未来社会につながる途を拓きます。
- ③ 認知症の人に学ぶ場として『りょうえんカフェ一番星』を開きます。人は老いて要介護になり認知症になって懸命に生き、多くの人と良き縁を結びながら天空に昇り、朝に夕にキラキラと輝く一番星となって、地上の人々に光を注ぐ『灯り』になるのです。
- ④ 開設30年の節目の年に当たり、平成9年より発行の機関誌を総合的に編集して『30年記念誌』を創り、皆様方のご指導を仰ぎながら、地域に貢献する事業への指針とします。

- ⑤ 『地域サポート型特養』として、中部中学校区を中心に独居や高齢夫婦世帯の生活支援に当たります。老人介護支援センターとホームヘルパーが主となって安否確認や生活相談を行い、必要に応じて配食等も実施しながら、様々な地域支援事業に取り組みます。

(2) 平成27年度業務指針

1 認知症の人の介護

主役として懸命に生きる認知症の人に学び、地域の人やご家族と協働して、主役に相応しい生活を支えます。感性や感覚に働き掛ける試みで不安と折合う力を養います。『造形教室』で現れる認知症状の違いは個別処遇の目安となり、『自彊術体操』で自らの自然治癒力を高め、安心ホルモンの分泌を促す『自彊術療法』には、ご家族や地域の方の参加を呼びかけます。『音楽療法』は五感を刺激し、生のピアノ伴奏で思い出の曲を歌う『ピアノ教室』は正に回想療法です。

2 ケアプランとリスクマネジメント

ご本人にとって不合理なリスクは排除しながら、主役として自らの暮らしを決める主体性を尊重して自立支援に努め、『引受けるべき妥当なリスク』とその対処をケアプランで明らかにします。

3 食事と健康管理

食べる事は生きる為の原点です。そして食べる事が出来なくなった時、調理の音や匂い、食事の気配は「生」を実感する瞬間です。生活の気配に浸る喜びを感じながら人生を締め括って欲しいと願い、調理を行います。口腔内の保清に努め、自然の摂理に沿った生命活動を支え、『健やかな最期』に寄り添います。

サ高住や地域の方で昼食・夕食を希望される方にお弁当を配り、地域包括ケアの一端を担います。

4 サービスの向上に向けて

自由な暮らしと安全で良好な生活環境の確保に向けて、感染症対策、身体拘束・行動制限の廃止、等々について常に職務を点検し、変更・改善に努めます。海外研修・外部研修会・内部研修会・各種会議を通じて、職員相互に切磋琢磨し、専門職としての技術を磨き、職業人としての資質を高めます。

5 事故への対応

日々機能が低下する暮らしの中で、不測の事故は起り得る事を前提として、迅速かつ適切な対応と丁寧な説明を旨として対応します。3名の第三者委員を加えた苦情調整委員会を毎月開催して、適切な対応と業務の改善に努めます。

## 6 防災避難対策

火災・地震・水害など災害時には自力で避難できない人が大半であり、火災を想定して年に2回、初期消火と避難誘導の訓練を行います。地震や台風等大規模災害も想定し、『福祉避難所』としての役割も考慮して、地域と連携した避難訓練を企画します。非常食を3日以上に備蓄して年に1回は非常食を食し、防災意識の向上に努めます。

## 7 季節毎の行事

年初の初詣でから年末の餅つきまで、季節に応じた行事を取り入れて自然の変化を感じ、ご家族や地域との接点を拡げます。夏祭りは、地域のボランティアグループや障害者団体等の協力を得て、未来の共生社会を目指す試みとして、様々な工夫を重ねます。

### (3) 平成27年度個別事業計画

#### 1 特別養護老人ホームせいりょう園(ユニット型30人)の運営

ユニット型の個室はご利用者自身の住居であり、主役として自らの生命力を存分に発揮して生活課題に向き合い、最期まで懸命に生きる姿を、身体拘束や行動制限は行わずに支えます。新たに造るアトリエを活用して、地域の人や子供達との新たな出逢いを創ります。

#### 2 地域密着型特別養護老人ホームせいりょう園(20人)の運営

個室仕様の2人部屋で、行き交う人の気配を感じ、東西両端のキッチンから漂う匂いや雰囲気にも包まれて、生きている事を実感する喜びの中で、人生の最終章を生き抜いて欲しい、と願い『居住空間』を整えます。

#### 3 指定短期入所生活介護事業(ショートステイ)の運営

人生の最終章を自宅で過ごす為の計画的利用と、看取りの場として短期利用する場合があります。何れの場合でも生活空間として心地よい居場所でありたいと願います。主治医や訪問看護師・ケアマネジャー等の多職種のスタッフが関与して、夫々の固有の関係性を拡げ、人生の最終章を彩る幸福感のある暮らしの実現を目指して、事業を展開します。

#### 4 指定通所介護事業(デイサービスセンター)の運営

目先の活力ではなく、老いの途を支える『感性と感覚』に働き掛ける工夫が重要です。自然の変化や他者の視線を感じ取って、生活空間の中で自らの居場所を探る力を養い、老いを受容して人生の仕上げに備えて頂きたいと願い、くつろぎの場で調理を行います。土・日も含めて毎日の運営を目指し、地域支援事業にも取り組みます。

認知症対応の小規模な共用型デイサービス2か所(各定員3名)と、利用者の特性に応じて利用を分担し合い、地域社会との関係性を拡げます。また、児童や障害児者との接点も模索したいと考えます。

#### 5 指定訪問介護事業（ホームヘルパーステーション）の運営

重度の要介護者が、地域社会の一員として自らの居宅で人生を締め括る暮らしには、訪問介護事業の充実が欠かせません。調理や清掃などの家政行為が中心となって創りだす生活空間で、生活援助技術・身体介護技術・看取り介護技術等の習得に努めます。介護保険対象から外れる生活支援サービスにも努めて、人生の仕上げの暮らしを最期まで支えます。

2つのサ高住居住者の『安否確認と生活相談』を担当し、希望者には弁当を届ける役割を担います。更に『地域サポート型特養』の窓口として、地域全体に生活支援事業を展開する途を拓けます。

#### 6 指定訪問看護事業（訪問看護ステーション）の運営

地域社会の一員として居宅で最期まで生活する高齢者にとって、医療・看護面での支援と助言が重要であり、かかりつけ医と連携して訪問看護師が、ご本人のみならずご家族や介護職をも支えます。医療的な処置を受けながら人生の仕上げを迎える高齢期の暮らしの中で、自然の摂理に沿った営みに潜む『QOLやQOD』に配慮して緩和ケアに努め、幸福な想いの溢れる自らの生活空間で、人生の仕上げの時を迎えて欲しいと願い、訪問看護を提供します。

#### 7 指定居宅介護支援事業（介護相談室・ケアプラン作成）の運営

要介護の高齢者が、地域社会の一員として最期まで居宅で生活することを旨としてケアプランを作り、家族や関係者との調整に当たります。高齢者が主役として人生を締め括る過程は、ご家族にとっても、地域の人々にとっても、介護職にとっても、貴重な経験の宝庫です。ご本人にとっては人生で最後の自己実現であり、次世代の人にとって人生を締め括る姿を見届ける経験は、思想や信仰心につながる貴重な『原体験』となります。出産や子育てを支える思想を育み、未来に希望をつなぐ地域包括ケアシステムの原点です。

#### 8 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）の運営

認知症の人は、持てる力のベストを尽くして懸命に生きるチャレンジャーです。一般的な社会常識には合わない行動が増えてきますが、長年の生活で培った感性・感覚と経験則で他者との距離を測り、居場所を探り、適度な関係性を築く、社会生活の適者です。『人格崩壊の過程にいる人』ではなく『ベストを尽くして懸命に生きている人』と観るとき、その生き様から多くの事柄を学び取ることができます。介護現場の観察力と発信力を高め、運営推進会議を通して、地域の人々に認知症の人から多くの学びが在る事を伝えて行きます。

2つのグループホームには、夫婦で入居できる部屋が有る事を周知し、

定員3人の共用型デイサービスの利用者を募り、認知症の人が小さな生活空間の中で自らの生活感覚を発揮する暮らしを通じて、地域社会の一員としての暮らしを維持し、認知症の人の居場所を地域に拡げます。

9 指定小規模多機能型居宅介護事業『輝きの家ながすな』の運営

高齢者が例え一人暮らしであっても、自らの居宅で最期を迎えるまでの生活を、総合的・包括的に支えるケアシステムとして、新たに創設された事業であり、地域社会の一員として人生を締め括る姿を、訪問介護を中心に多機能性を発揮して、ご家族やご友人とも協働して支えます。

運営推進会議を通して、認知症や要介護のお年寄りとの関わりから多くの学びが得られる事を地域の人に伝えたい、と考えます。

10 軽費老人ホーム『ケアハウスせいりょう園』の運営

今年度より定員30人の特定施設入所者生活介護を提供します。バス・トイレ・キッチンを備えた完全個室で、老いによる心身の機能低下と折合を着け、人生の締め括りを見据えて居住する生活空間として最適な環境であり、ご家族やご友人とも協働して、在宅モデルの介護施設を実現します。

11 「リバティかこがわ」「自愛の家さくら」の運営

バス・トイレ・キッチンは、感覚を刺激する生活の必需品です。そして、適度な密度のコミュニティの中で他者と係わり、適度な距離とタイミングで介護サービスを利用して、豊かな気持ちで暮らしながら、『主役』として人生の最終章を締め括って頂きたい、と願います。2つのサ高住は、要介護になっても、認知症になっても、小規模多機能型居宅介護や訪問介護・訪問看護などの介護サービスを利用して最期まで暮らし、次の世代に社会を引継ぐ役割と責任を果たす為に最適の、『地域包括ケアのモデル住宅』です。『安否確認と生活相談』には、せいりょう園のホームヘルパーステーションが当り、老人介護支援センターがサポートします。

12 鍼灸マッサージ治療センターの運営

認知症や要介護になる惧れを感じているお年寄りには、心の内に生じてくる不安に対して折合を着け、安心感や信頼感を生み出す心の拠所が必要です。マッサージや指圧・柔道整復術は、生物学的な治療効果と同時に、人の手が触れる感覚が他者への信頼感や安心感を生み、心地良さや安息感を与える優れた技術です。介護の原点にも通じる高度な技術を入居するお年寄りに提供しながら、地域の多くの皆様にも利用して戴きたいと願います。職員の福利厚生も担います。

13 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営

車椅子のお年寄りや認知症の人がご家族とお茶を飲み談笑しています。地域の人が打合せの場として利用し、ご近所の人と職員が入り混じって昼食

を摂り、コーヒーを飲んでいきます。エントランスには様々な情報を発信し交換できるスペースを設けて、様々な人々が何気なく触れ合える場を目指します。職員給食としても味と栄養価とボリュームに配慮し、近隣の人にも利用して頂けるように努めて、増収・増益を図ります。

#### 14 せいりょう園老人介護支援センターの運営

『地域サポート型特養』の窓口として地域包括ケアシステムの拠点の役割をめざして、下記業務と共に地域交流事業を企画し運営します。

- ☆ 入所待機者の個別の待機状況を把握し、多様な解決策を提示します。
- ☆ 地域支援事業を多様な形態で実施するボランティアな組織を育成し、支援します。
- ☆ 『加古川認知症の人と家族・サポーターの会：元気会』の例会場を提供し、活動を支援します。
- ☆ 認知症の人に学ぶ『りょうえんカフェ一番星』を開催します。
- ☆ 第三者委員を中心に毎月『サービス改善委員会』を開きます。
- ☆ 職員の資質向上を意図した企画・研修・相談を行います。

#### ◎地域交流事業として

ご利用者の自立と主体性を尊重し、ご家族や地域の人々との交流を深め、法人事業と介護業務への理解と信頼を高めることを目指して、以下の取組を企画し実施していきます。

- ① のびのびルーム：ご利用者の自主サークル活動・13時～  
月：自彊術、火：映画、水：カラオケ、木：自彊術  
場所：せいりょう園支援センター地域交流ホール
- ② 共生の会：シニア世代の勉強会・毎月第1月曜日18時30分～
- ③ 介護について語ろう会：毎月第4金曜日14時～
- ④ 機関紙『せいりょう園』の発行：月刊
- ⑤ 木野雅之ヴァイオリンリサイタル：6月27日（土）予定
- ⑥ ロンドンアンサンブルコンサート：12月予定
- ⑦ せいりょう園陶芸教室：指導・喜多千景・中本万理恵、顧問・川西幹夫  
：月3回日曜昼・月曜午後は陶芸室にて  
：金曜午後は地域交流ホールにて
- ⑧ 仏教講話：ご住職持ち回りで法話を聞く会、毎月第1月曜日15時
- ⑨ ピアノ教室：金曜日10時～藤城亜紀子先生のピアノ伴奏で歌う会
- ⑩ 自彊術療法：水曜日15時～佐藤鈴子奥伝師範の指導により、安心ホルモンの分泌を促す療法の実技指導、地域交流ホールにて  
：日曜日10時～グループホームまどかにて
- ⑪ 音楽療法：水曜日14時～15時、築山佳奈子先生の指導で合唱・合奏を

楽しみながら、リズム感覚の活性化を図る試み

- ⑫ 造形教室：金曜日10時～11時、喜多千景先生・中本万理恵先生の指導により小麦粉粘土を使って造形的な感覚の活性化を図る試み。「せいりょう園グループホーム」「グループホームまどか」の2ヵ所で実施
- ⑬ 書道教室：1・3火曜日13時～、土井清子先生の指導と近隣の皆様の参加を得て、一緒に練習しています
- ⑭ ボランティア活動の推進と募集：のびのびルームの世話、手芸、園芸、折り紙、書道、等々をお年寄りと一緒に楽しむボランティアの方が、個人やグループで多数参加して下さっています。新たな方々の参加を歓迎します。
- ⑮ 街角コンサート：リバティかこがわ1階廊下に置いてある自動演奏ピアノを弾いて、『街角コンサート』を開いて頂ける方を募集します。
- ⑯ 「安心できる地域ケアを考える会」定例会の会場を提供します。  
：毎月第四火曜19時～21時リバティかこがわ2階

## 15 その他事業

社会福祉法人の社会的使命を自覚し、地域社会で生き辛さを抱えて命と向き合う人々を支援する事業を模索します。

- ・「自愛の家さくら」1階の3つのテナントには、地域医療や子育て・障害者支援につながる事業所を誘致します。
- ・知的障害・精神障害・若年認知症の方々の社会・就労活動を支援する事業を模索します。
- ・近隣の町内で空家になった民家を、カフェやサロンや共同住宅として活用する途を探ります。
- ・加古川市に在る4つの矯正施設を満了出所した人の生活を支援する途を探り、『人間再生の街加古川』の実現を目指します。